Findeln
Sunnegga
Grünsee
Flubalp
ZERMATT

DDR
5
TAG DES KINDES 1964

■NDC909　昭和41年　506P　22・5cm小学館版
——少年少女世界の名作文学／第29巻／ドイツ編3——

■昭和41年8月20日発行
■少年少女世界の名作文学／第29巻／ドイツ編3
■アルプスの少女／沈鐘／人形使いのポーレ
■みずうみ／メーリケ詩／フラウ＝ゾルゲ
■定価／四八〇円
■編者／©名作選定委員会　■発行者／相賀徹夫
■発行所／株式会社小学館　東京都千代田区神田一ツ橋二ノ五
■電話／東京(263)二一一一　■振替／東京二〇〇番
■印刷・製本／大日本印刷株式会社
■本文用紙／本州製紙株式会社
■表紙クロス／東洋クロス株式会社

執筆者紹介

槇本ナナ子／大正11年、岡山県に生まれる。日本児童文芸家協会理事。主な著書に、はねのはえた三りんしゃ

阿貴良一／明治44年、岡山県に生まれる。日本児童文芸家協会会員。主な著書に、東京のにおい、春がきた家

井上明子／昭和8年、長崎県に生まれる。日本児童文芸家協会会員。主な著書に、野口英世、にんじん

神保光太郎／明治38年、山形県に生まれる。現代詩人会、日本文芸家協会会員。主な著書に、詩集鳥、雪崩、神保光太郎全詩集、ゲーテ対話の書

西山敏夫／明治38年、神奈川県に生まれる。日本児童文芸家協会会員。昭和33年小学館児童文学賞を受く。主な著書に、お父さんの船、オランダ焼き

造本には、じゅうぶん注意しておりますが、万一落丁・乱丁などの、不良品がありましたら、おとりかえいたします。

Printed in Japan

少年少女世界の名作文学—29

ドイツ編　3

アルプスの少女・沈鐘・人形使いのポーレ

スピリ原作　ハウプトマン原作　シュトルム原作

みずうみ・メーリケ詩・フラウ＝ゾルゲ

シュトルム原作　ズーダーマン原作

手塚富雄編

小学館

はじめに……

手塚富雄

この巻には、十九世紀のドイツの作品から選んだものをおさめました。もっともスピリはスイスの女流文学者ですが、スイスの大部分がドイツ語を使い、スピリもドイツ語で書いていますから、広い意味ではこの人もドイツ文学のなかにはいります。

スピリの物語は、世界のほとんどすべてのことばに翻訳されて愛読されていますが、本書にのせた『アルプスの少女』は、そのなかでも、いちばん有名です。これを読むと、さわやかなアルプスの空気を胸いっぱいに吸いこむような気持ちになってきます。

ハウプトマンの『沈鐘』は、ドイツふうな森のなかの空想の世界へ、わたしたちを誘いこみます。

シュトルムは、こまやかな感じのする、なつかしい作品をたくさん書いた人ですが、『人形使いのポーレ』と『みずうみ』は、ことに少年少女の気持ちをよくうつしております。『みずうみ』は、日本でドイツ語を勉強する人の教科書として、じつに多く読まれたものです。『人形使いのポーレ』からは、人形しばいを見てわくわくする少年のこころがつたわってきます。テレビや映画のない時代には、人形しばいは子どもたちのとても大きい楽しみでした。

ズーダーマンの『フラウ＝ゾルゲ』（悲しみの女）の題の意味は、この作品の全体を読むとわかってきます。これは少年パウルが、勇気と誠実をもって、意地の悪い運命（悲しみの女）にうちかった話です。

それに本格的な叙情詩人メーリケの詩もいれました。

アルプスの少女

こんな山には、見なれない珍しい行列がやってきました。山かごに乗った少女を中にして……。なんと、それはクララたちでした。町からはるばると、この山をたずねてきたのです。

163ページをごらんください。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

人形使いのポーレ

舞台裏の楽屋は、ひっそりと静まりかえっている。かすかにさしこむ青白い月の光に人形がぶきみに浮かびあがる。パウルとリーザイは、心細くなって、胸がどきどきしてきた。

289ページをごらんください。

みずうみ

木もれ日にはえて若葉が美しく輝く。目にしみいるような緑の森。若いふたりの心にともる小さな愛。いつまでもしあわせにと願うふたりに、森の小鳥も愛の喜びをかなでてくれる。

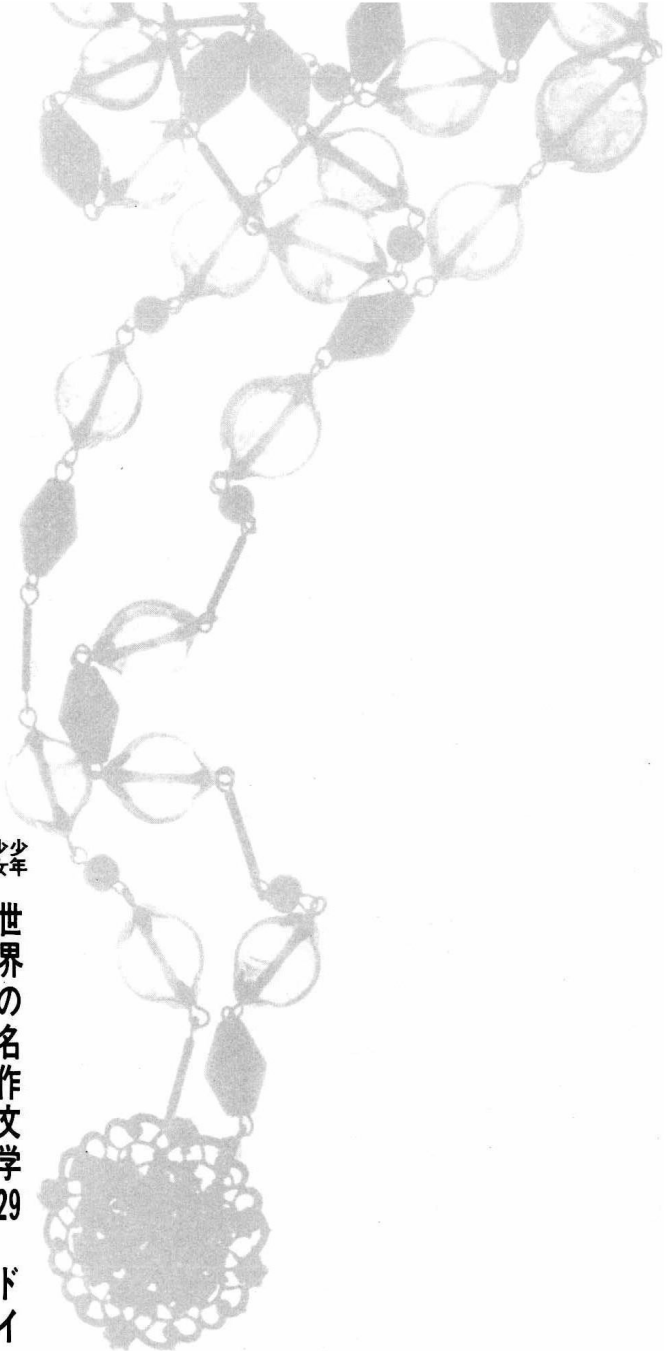
325ページをごらんください。

フラウ＝ゾルゲ

幼友だちエルスベートの家は夜霧に包まれ、窓の人影がゆれた。ぱっと明るくなった周囲にパウルは叫んだ。「うちがもえている。」ひざ頭がふるえた。「行け、救えるだけ救うんだ。」

429ページをごらんください。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com



少年少女 世界の名作文学29 ドイツ編3

もくじ

はじめに……2

アルプスの少女

スピリ作……19

第一章　楽しい牧場

（一）山のアルムおじさん……21
（二）すてきな山の毎日……30
（三）やぎのいる牧場……37
（四）めくらのおばあさん……45
（五）みょうなお客さま……53

第二章　フランクフルトへ

（一）つれてこられたお屋敷……62
（二）おこってばかりいる家政婦さん……69

（三）毎日大さわぎ……78
（四）おとうさまのお帰り……87
（五）すてきなおばあさま……92
（六）なつかしい山……100
（七）ゆうれいのでる家……105
第三章　なつかしいアルム山
（一）望みがかなって……116
（二）鐘の音を聞きながら……131
（三）おもいがけないお客さま……145
（四）ハイジのお礼……153
第四章　星をあおいで
（一）うれしい知らせ……159
（二）クララといっしょに……172

（三）たいへんなできごと……179
（四）楽しいお別れ……190

沈鐘

ハウプトマン作……207

（一）金色の髪……209
（二）新しい鐘……225
（三）鐘造り……235
（四）谷底の鐘の響き……242
（五）太陽がのぼる……252

人形使いのポーレ

シュトルム作……263

（一）人形しばい
旅の少女……265

おどけ人形……271
いたずら……278
ふたりっきり……285
（二）行く秋、来る秋
別れの秋……293
めぐり合い……299
（三）花ひらく愛
告白……304
悲しみと喜びの春……311
みずうみ　シュトルム作……319
（一）エリカの花さけば
幼なじみ……321

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com